

第 2 回 伊丹市総合計画審議会 議事概要

開催日時	令和元年9月2日（金）午後15時00分～17時00分
開催場所	伊丹市役所7階 701会議室
出席者	加賀委員、芝野委員、直田委員、審良委員、榎木委員、川村委員、小林委員 坂本委員、徐委員、辻委員、中尾委員、西濱委員、宮脇委員、森委員 吉澤委員、渡瀬委員、上田委員、木村委員、嶋本委員、鈴木委員
欠席者	松尾委員、植木委員、寺坂委員、吉村委員
事務局	総合政策部長・政策室長 他4名
傍聴者	3名
議題(案件)	<ol style="list-style-type: none"> 1. 開会 2. 議題 <ol style="list-style-type: none"> (1) 第1回伊丹市総合計画審議会の議事概要（報告） (2) 伊丹市の人口・行財政等の中長期的な見通し等 (3) 第6次伊丹市総合計画 基本構想（素案）の概要 (4) 伊丹市総合計画審議会の部会について 3. その他
資料	資料① 第1回伊丹市総合計画審議会の議事概要 資料② 市民ニーズの把握調査結果（概要） 資料③ 伊丹市の人口・行財政等の中長期的な見通し （参考）先端技術等の社会動向 資料④ 第6次 伊丹市総合計画基本構想（素案） 資料⑤ 第5次伊丹市総合計画からの変更点 資料⑥ 伊丹市総合計画審議会の部会について（案） 伊丹市総合計画審議会委員名簿・配席図

議 事 の 経 過	
発言者	発言の内容
	<p>1 開会</p> <ul style="list-style-type: none"> ・録音、写真撮影の確認 ・資料確認 ・委員総数 24 名のうち 20 名が出席しており、本会議が成立していることを確認。 ・会議録の署名委員が審良委員と榎木委員であることを確認。 ・傍聴が 3 名であることを確認。
会長	<p>2 議題 (1) 第 1 回伊丹市総合計画審議会の議事概要 (報告) (事務局から、資料①、資料②について説明)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・意見、質問等が無いので、次の議題へ移らせていただく。
会長 委員	<p>議題 (2) 伊丹市の人口・行財政等の中長期的な見通し等 (事務局から、資料③について説明)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・意見があればお願いしたい。 ・お示ししていただいた人口予測は非常に楽観的な予測となっている。 ・首都圏への一極集中が進む中で、根本的な解決策を打ち出していない。国の動きだけではなく市内の動きに注目すべきだ。マンション開発におけるディベロッパーとのマッチングや、人口減少が進んでいる地域での集合住宅の建設といった施策を取るべきだ。 ・公共施設の老朽化に関して、コンクリート構造物なら 60 年か 70 年の耐久性はあるのではないか。建て替えも必要だが、長寿命化の計画の下で耐用年数を延ばすことも大切だ。 ・財政収支の見通しは 450 億円の赤字とのことだが、市民病院建て替えの費用はこの中に入っているのか教えていただきたい。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・財政収支の見通しについて、60 年の耐用年数があるものについては 60 年をもって建て替える条件で試算されている。市民病院のあり方についても検討している最中だ。 ・行財政プランは平成 28 年から令和 2 年までの計画期間となっており、様々な対策によりプラスマイナスゼロに近づけるように取組を進めている。令和 3 年からの新たな行財政プランについても、今後、策定予定だ。 ・今後、伊丹市の取組としては優先順位を付けて取り組んでいく。公共施設の老朽化については、長寿命化を図りながら費用負担を圧縮していく。 ・高度経済成長期に建設された公共施設が多く、この期間に造られたものは大規模改修やメンテナンスが必要になっており、その費用がかさんでいる。総合計画と同時期に、中長期の保全計画を立てていきたい。 ・短期的に取り組むべき施設は、既に第 5 次総合計画の期間中に取組を進めている。中期的、長期的に取り組むべき施設についても移転や複合化、機能集

会長	<p>約、廃止を検討していかなければならない。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・築 30 年以上経過した際には大規模な改修工事や建て替えが必要になってくるという記載があるので、60 年の耐用年数を基本線にしているという理解でよろしいか。
事務局 委員	<ul style="list-style-type: none"> ・お見込みの通りである。 ・施設の老朽化問題への対応と、新しい行財政改革の取り組みを実施した上で 450 億円の収支が出るわけではないと理解してよろしいか。
事務局 委員	<ul style="list-style-type: none"> ・お見込みの通りである。 ・老朽化問題の対策と行財政改革の取り組みを行うのなら、実際は 450 億円もの赤字とはならないのではないか。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・行財政改革への取り組みで、平成 30 年度の実質収支は 8 億円強となっているが、グラフでは収支不足となっているのはなぜか。 ・庁舎の建て替えには、保全基金を積み立てているのではないか。保全基金を用いた上で 450 億円の収支不足となるのか教えていただきたい。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・行財政プランの取り組みは、平成 30 年度当初予算では、17 億 8,800 万円の効果額が出る予定だったが、決算で見ると 21 億 9,300 万円であり、当初の予定額より上回っている。 ・それは、様々な取り組みを行った成果であり、グラフの平成 28 年度から平成 32 年度までの見込額で見ると、平成 30 年度の効果額はマイナスになっているが、実際には平成 30 年度決算は 41 年連続で黒字決算となっている。 ・伊丹市の貯金にあたる財政調整基金を 73 億円積み上げている。また、公共施設の整備保全基金、借金を返済していくための基金が別に備えてある。今回、庁舎を建て替えるにあたっては公共施設等保全基金から取り崩しており、将来の負担が小さくなるように調整している。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・新しく策定する行財政プランと公共施設の中長期保全計画は、この総合計画と同じく令和 3 年からの計画期間となっている。 ・公共施設等整備保全基金を使用した上で 450 億円の収支不足となるのか。グラフを見ると、新しい総合計画の期間の不足額は 120 億円くらいだが、この間に庁舎や病院の建て替えを行うのではないか。
事務局 委員	<ul style="list-style-type: none"> ・基金を使わずに 450 億円である。 ・今後効率的かつ効果的な行財政運営を行っていくと思うが、そうすると 450 億円という額は最大に見積もった額ということか。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・現時点ではそうだが、病院の長寿命化といったことは新たな行財政プランに基づいて、今後精査して進めていく。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・人口の目標は 20 万人となっているが、これは効果的なまちづくり施策を実施した上での数字か。税収の予測もこの人口を基にしているのか。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・その点についても今後、できるだけ精緻な数字の見込みを作っていく。 ・総合戦略を策定した際には 2025 年に 20 万人の人口に到達し、そこから減少すると見込んでいたが、20 万人に達するのが、少し先になる。この値は、施策の魅力による転入者の増加と、出生率の上昇、住宅開発の見込みを勘案し

委員	た数字となっている。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> 450億円の収支不足額についてだが、内訳と、支出で大きな要素になっているのは何か、教えていただきたい。
委員	<ul style="list-style-type: none"> 内訳は後日お答えしたい。高齢化が進んでいく中で、社会保障経費と公共施設の費用が大きな割合を占めている。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> 資料3の将来推計人口のグラフと、「伊丹市の現況」にある人口の表について、平成27年度の高齢者割合の数値が異なっているのはなぜか。
委員	<ul style="list-style-type: none"> 資料3で示しているものは、年齢不詳の回答を按分している。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> 日本全体の人口が減少している中で、伊丹市だけで人口が増えることについては、新たな課題が生じる恐れがある。 例えば川崎市で交通の便が良い地域は高層マンションが増えている。それに伴い小学校が不足し、その為の支出が課題となっている。 人口が増えれば税収は増えるが、それに伴い支出も増える。このバランスをうまく取らないと、いびつな都市構造となり財政構造上の問題が出てくる可能性に留意する必要がある。
委員	<p>議題 (3) 第6次伊丹市総合計画基本構想(素案)の概要 (事務局から、資料④、資料⑤について説明)</p> <ul style="list-style-type: none"> 市民参画と協働という言葉の使い方が気になっている。前回、前々回の総合計画でも出ていたが、今の時代では上から目線の言葉だと感じる。別の表現を考えていただきたい。 伊丹グリーンジャムと市の関係は協賛とのことだが、お金、人、物の提供が無いのならば後援であり、表現を考える必要がある。 市民参画というと、行政の方に市民を呼び込むように感じるが、行政職員が市民主体の活動に関わっていく方が本当に交流になるのではないか。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> 伊丹市はまちづくり基本条例に参画と協働の取り組みを位置付けており、市民の市政への参画を、行政と市民の協働という表現としている。 今後も参画と協働の取り組みはいっそう大切になってくる。伊丹市では市民主体の活発なイベントが多く開かれており、市と市民団体の役割分担についても、今後の大きな課題だ。
会長	<ul style="list-style-type: none"> 実際の活動における市と市民の関係性と、文章の書き方による乖離を、総合計画を考えていく過程で埋めていく必要がある。
委員	<ul style="list-style-type: none"> 参画と協働については、現計画では基本方針の中に入っている。今回は施策の大綱②、④、⑥に入っているが、①から⑥の全てに関わってくるのではないか。 行政と市民が一緒になって行わなければ達成できないことが多いため、全体に入る位置づけを行わなければならない。ボトムアップで行う必要がある。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> 市としても、施策の大綱⑥は①から⑤のすべてに関わっていると考えている。この点については表現を検討していきたい。 グリーンジャムについては、ある程度実績が積み上がり、全国に発信できる

	<p>事業となった。最初の立ち上げからプライベートで参加している市職員も多く、今年度も関わっている。市の関与の仕方についての表現は今後検討していく。</p>
委員	<ul style="list-style-type: none"> 市としては公園の無償貸与や施設を事務所で貸与しているが、今後は安全対策やごみ問題等、主催者と話し合う必要性があると考えている。
委員	<ul style="list-style-type: none"> グリーンジャムでは、市の施設を出演者の休憩場所にしてくれるように要望があった。市が全く関与していないわけではない。
委員	<ul style="list-style-type: none"> 今後、伊丹市でも少子高齢化が進んでいくと思われる。伊丹のまちや人に愛着を持ち、伊丹で夢や希望を叶えてくれる子どもが育つために、現在検討している将来像は素晴らしいと思う。 人口減少に起因する企業力の低下に着目すべきではないだろうか。 現在、人手不足が重大な問題となっている中で、建設業の担い手が少なくなっている。この背景には公共工事の入札制度の問題もあると思われる。 災害や有事の際に、企業がどれだけの機動力があるかを考えると、中小企業の未来を見据えたあり方に着目して構想を考えた方が良い。
委員	<ul style="list-style-type: none"> 私はこれまで市民活動をしてきた側の人間だが、私が思っている以上に市は市民のことを考えて行動していると感じる。ただし、文章にすると行政からの上から目線となってしまふのだろう。 計画の文章を市民と一緒に考えれば、市民側も協働の意識を持つことができるのではないか。
委員	<ul style="list-style-type: none"> 子どもたちの意見はないがしるにされがちなので、小中学生アンケートを実施していただき感謝を申し上げます。子どもたちの視点を施策に盛り込んでいただきたい。 例えば、施策の大綱①では、地域防犯は子どもが関わってくる。旗当番のように、地域の方を巻き込んだ施策を考えていただきたい。 施策の大綱④では、職業体験のように子どもが参画して賑わい、市民力を上げていく形での施策を打ち出していきたい。 最も気になっている部分は施策の大綱⑤で、子どもたちにとっての良好な都市形成はどのようなものか。小中学生アンケートの理想のまちについて「子どもたちがたくさん遊べるまち」の項目があれば上位に来ただろう。地域の公園や校庭の開放といった方法で子どもたちの遊び場が増えることは非常に大切だ。0～10歳の小さい子どもと、その親にとっては公園、校庭、園庭は生活の中で非常に重要な場所となる。そういった場所の確保という視点もとり入れていただきたい。
委員	<ul style="list-style-type: none"> 地域では月曜日から木曜日まで下校時の見守り活動を行っている。地域の人をもっと参画してくれると良い。自治会加入率も低くなっている。また、金曜日はPTAのお母さんたちに下校時の見守り活動をしていただいているが、参加者数は少ない。これは、共働きが非常に多いことがある。 伊丹ではあまり聞かないが、虐待のニュースも多い。学校での虐待だけではなく、家庭での虐待もある。今後はもっと重視して、この会議でも話してい

委員	<p>ければと思う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・老人会でも子どもの見守りをしているが、先日見守りをしていた高齢者が自転車にひかれてしまった。伊丹市は自転車のマナーが悪いと感じる。市も対策をとる必要がある。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・都市ブランド力について、450億円の収支不足は暗い印象を受ける。アンケートを見ていると、市民は事件や事故が少なく災害に強い安心・安全なまちづくりを求めているのではないか。 ・今後歳出は少なくしていかなければならないが、市として攻めるところは攻めてほしい。中国ではこれから自動運転のレベル4が始まる。そうなった際に、今は電柱についているミマモルメの次のステップとして、車載カメラへの導入ができないか。官民一体となった協働の取り組みとして、都市ブランドの上昇に寄与すると思われる。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・市が上から目線であるということは、市民が主体となってまちづくりを進めていくという部分が十分に言語化されていないということで、工夫が必要だ。 ・市民ニーズをみると人と人とのつながりというコミュニケーションが重視されており、基本構想の中で市民相互の支え合いや生き甲斐といった形で表現されている。部会でも、コミュニケーション力を育てていく必要性を議論することになるだろう。 ・基本構想では、まちづくりについては多く言及されているが人については言及されていない印象を受ける。仕事の視点の記載が少ないと思う。 <p>議題 （4）伊丹市総合計画審議会の部会について（案） （事務局から、資料⑥について説明）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事務局案により、委員構成を決定。 ・事務局案により、第1部会部会長に直田委員、副部会長に加賀委員 第2部会部会長に芝野委員、副部会長に松尾委員
会長	<ul style="list-style-type: none"> ・本日の議題はこれに終了した。活発なご意見を頂き、感謝申し上げます。部会でも多くの意見を頂きながら、より良い総合計画をつくっていかればと思う。
事務局	<p>3 その他</p> <ul style="list-style-type: none"> ・資料の内容等についての意見、質問については随時政策室までご連絡頂きたい。 ・次回についても、万障繰り合わせの上ご出席いただきたい。 <p style="text-align: right;">以 上</p>